

第15回教育相談全国研究集会 報告

(2008年12月4日・5日開催)



■ 事前の取り組み

事前に各県の相談室についてのアンケートをとって事務局でまとめた。「もしもし電話相談」「親と子の教育相談」「教育110番」「心理<2022>教育相談」など相談室名もいろいろだった。またリーフレットを発行したり、ホームページの開設、タウンパケットに広告を掲載するなど工夫した活動を紹介することができた。お互いの活動紹介にもなり、これから相談室を開催しなくては、と考えている県には参考になったので、事前のアンケートも大切だと思った。

■ 圧倒された精神科・教職外来専門の牧先生の話

「教職員のメンタルヘルス」というテーマで講演がされた。「教職は感情労働それだけでストレスフル」という言葉を聞いたとき、本当にそうだと実感した。児童生徒・保護者・同僚・管理職と仕事はいつも人間相手だ。常時人間相手に喜び・怒り・悩み・感動・失望など様々な感情に囲まれて生活している。他の職種に比べストレスが強いといわれている。しかも、この間、社会の変化・子どもや保護者の変化・教育体制の変化は、教職員に多重の苦痛をあたえている。そのためにメンタルヘルスの問題を抱えている教職員は急激に増加している。

牧先生はこのような状況をどう捉えたらよいか、そしてこれからどうしたらよいか、医療経験を踏まえ、丁寧にそして熱心に語ってくださった。心の病の発症には外的要因と内的要因がある。特に内的要因として、真面目で頑張る人がなりやすい、人一倍周りに気を遣う人がなりやすい、完全に仕事をこなそうと努力する人がなりや

すいなどの話を聞いてなるほどと納得した。発症すると周りから怠けている、わがままをいっているなどと誤解を受け、さらに病状が進行する事があるので、早期発見や周囲の理解が大切である。特に管理職の理解が重要なポイントであると感じた。

■ 講演を聞いてのグループ討議

牧先生の講演を聞いた後、少人数に分かれてグループ討議を行った。牧先生の講演を聞いての感想、質問、自分達が抱えている事例やいったん休んだ人の復帰状況などを交流した。少人数なので、各人の相談経験や自分の県での相談活動や組合での取り組みなども交えてフレンドリーに話が進んだ。

■ テーマごとの分散会（二日目）

第一会場は「相談室を充実させるために」というテーマで、第二会場は「教職員のメンタルヘルスについて」というテーマで分散会を行った。

第一会場では、相談活動の大切さ、組合との連携の必要性、相談員の研修の必要性や活動資金の問題など沢山の課題が出てきた。

第二会場では、教職員のメンタルヘルスを健全に保つにはどうしたらよいか、退職後復職するときの留意点は何かなどが語られた。

それぞれの分散会が終了した後、その報告会をして、二日間の全国研究集会を終了した。各県が抱えている教育相談活動の問題の重さ、共通点、今後の課題がみえた研究集会だった。

文責 徳永 恭子